

## 商標五庁会合（TM5）商標イメージサーチ専門家会合（サマリー）

### 1. 開催場所及び期間

フクラシア八重洲（東京都中央区八重洲 2-4-1）  
平成 29 年 11 月 8 日（水）～9 日（木）

### 2. 出席者

JPO：花木審査業務部長（冒頭挨拶）、佐藤商標課長、赤星商標審査機械化企画調整室長、  
高野商標審査企画官、瀬戸商標政策班長 渡邊審査推進企画班長 ほか

EUIPO：ミゲル・オリバース 欧州協力部 ECP1/ECP3 プロジェクトマネージャー  
クリストフ・ヒメネス 国際協力・法務部チームリーダー

SAIC：呉勤 商標局計算機管理処 副処長

USPTO：グレッグ・ダッドソン 副局長 商標管理部  
グレン・ブラウン 商標 IT アドバイザー

WIPO：モナ・レムラウィ グローバル・インフラストラクチャー部門グローバル・データベ  
ース部ブランド・デザインデータベース課長

基調講演：坂無英徳 博士（工学） 国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究セ  
ンター 人工知能応用研究チーム 上席主任研究員

企業：株式会社 NTT データ

株式会社日立製作所

クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社

TrademarkVision

北京华智经纬科技有限公司

### 3. 経緯・目的

イメージサーチプロジェクトは、JPO がリードする TM5 における協力プロジェクト（計 13 プ  
ロジェクト）の一つであり、図形サーチシステムの開発及び実施における問題やその解決策、  
イメージサーチ導入に向け参考となるような成果物の作成・共有を目的としている。

平成 26 年 3 月以来、2 回目の開催となる本専門家会合では、TM5 各庁が進めるイメージサ  
ーチ分野における最新の取組や、企業におけるイメージサーチ技術の動向の紹介等をテーマに、  
専門家間における情報共有及び意見交換が行われ、各国のイメージサーチ導入に向けての検討  
材料となった。

### 4. 結果概要

#### （1）基調講演

坂無博士から、イメージサーチ技術の基本的な手法とその概要及び人工知能技術とその活用  
事例、イメージサーチ技術を商標審査に応用した場合の課題や活用可能性等について講演があ  
った。

#### （2）WIPO 「グローバルブランドデータベース」の紹介

WIPO のモナ・レムラウィさんから、WIPO の HP において提供している「グローバルブラン  
ドデータベース」のイメージサーチ検索に関する検索方法やその仕組み、オープンソースを  
利用した内部開発によるものであること等の紹介があった。また、第三者に開発・運営を委  
託することはリリース後のサービス停止等のリスクを考慮する必要があることや、イメージ  
サーチ技術は有用ではあるものの、現行のウィーン図形分類と組み合わせて用いるべきでは  
ないかとのコメントがあった。

#### （3）各庁のイメージサーチに関する取組状況等

各庁から、イメージサーチ導入に係る検討状況や進捗等について発表があった。各庁とも、AIを活用したイメージサーチの観点で検討等を行っている点、また、ウィーン図形分類等の既存の検索キーも組み合わせる方向で検討を進めている点が共通していた。

各庁の発表内容は以下のとおり。

JPOの武谷逸平さんから、JPOにおけるイメージサーチの取組状況や、本年度行う実証研究の概要を説明するとともに、今後のビジョンについて発表を行ったところ、他庁からは、ノイズ落としの観点での研究内容（イメージサーチ技術を使って不要な検索結果を除外することができるかについて検証するもの）のほか、JPOが行っている他のAI検証事業の内容にも関心が示された。

EUIPOのミゲル・オリバースさんから、イーサーチプラスの紹介や、近年行った調査内容について発表があり、その過程で判明した課題（商用データベースは、民間会社が内部データを見せたがらないことや、知財の専門家の協力を得る難しさなど）が共有された。また、戦略プランの一つとしてユーザーを含めて研究を進めている点について関心が示された。

SAICの呉勤さんから、中国商標局の歴史や現在の業務フロー、出願状況についての説明や、今後の審査効率化のための方向性について発表があった。参加者からは、具体的な導入時期やどの様な企業と連携しているのか等について関心が示された。

USPTOのグレッグ・ダッドソンさん、グレン・ブラウンさんから、ビッグデータやAIの取り組み、機械学習等の道筋が紹介され、プライバシーや機密情報等の扱いの問題や、将来的にはビッグデータ技術を利用して膨大な量のデータを扱っていく旨について発表があった。参加者からは、将来の展望や、これらの取り組みは公開されているのかについて関心が示された。

#### (4) イメージサーチに取り組む企業によるプレゼン

日本企業として、NTTデータ、日立製作所、クラリベイトの3社、海外企業として、TrademarkVision及び北京华智经纬科技有限公司の2社から、各社のイメージサーチの技術内容に関するプレゼンが行われ、イメージサーチにおけるデータベースの構築方法、検索手法や解析手法等について活発な質疑応答がなされた。特に、検索手法や、精度といった技術的側面や、システムの提供先や試験的に利用可能かといった運用面について関心が示された。

#### (5) ディスカッション

会場の最後に、JPOの赤星室長、渡邊班長の司会で、参加者によるディスカッションが行われた。

まずは、企業プレゼンについてのディスカッションが行われ、その後、全体的なディスカッションが行われた。

企業プレゼンについてのディスカッションでは、多くの参加者から非常に興味深く多くの収穫があった旨のコメントがあった。また、企業との連携方法やデータ管理方法、法的側面など留意すべき点について、率直な意見交換がなされ、今後の検討に有益な情報が交換された。

全体ディスカッションでは、全体を通して、今後の取り組みの大きな方向性として、引き続き、AI、ウィーン図形分類等を活用しながら検討を進めていくことを確認した。

また、主な課題として、以下の様な内容が議論された。

- ・イメージサーチによる類似性の基準をどこに置くべきか
- ・どこまで検索結果を出すべきか
- ・技術のブラックボックス化を招かないための企業との連携の仕方はどうあるべきか

・審査効率化の手段として AI を導入することは有用だが、人手による審査との役割分担について検討が必要であること

最後に、今後も、各庁で効率的・効果的な図形商標検索の実現に向けた検討を進め、その成果の共有等を継続することの重要性が確認された。

以上